



7.13水害で刈谷田川の堤防が決壊し、浸水被害を受けた中之島地域

7.13水害から20年 大雨に備え、

命を守る

中之島地域を中心に甚大な被害をもたらした7.13水害から今年で20年。近年では地球温暖化による豪雨災害が頻発・激甚化しており、信濃川氾濫への備えも必要です。出水期を前に、改めて命を守る行動を確認しましょう。
閩危機管理防災本部 ☎39・2262

避難のタイミングを改めて確認

警戒レベル3で「高齢者などが避難開始」、警戒レベル4で「全員避難」が基本です。いざというときに速やかに行動できるよう、警戒レベルに応じた行動を事前に確認しましょう。

警戒レベル	市などが発信する情報	取るべき行動
5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保！
4	避難指示	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者などは避難 ※高齢者などの要避難者以外も危険を感じたら自主的に避難
2	長岡独自 信濃川早期警戒情報 大雨・洪水注意報	浸水しない場所へ避難 避難の準備・確認
1	早期注意情報	災害への心構えを高める

信濃川の水位
上昇のイメージ

観測史上最高水位
(令和元年台風19号時)

長生橋が通行止めになる

河川敷が水に浸かり始める

信濃川増水の場合は“より早い”避難を

Q1 「信濃川早期警戒情報」って何？

信濃川上流の水位が上昇して市内で氾濫の恐れがあるときに、市が独自に発表し、早めの避難行動を呼び掛けます。高齢者や障害のある人など、避難に時間を要する人は避難を始めてください。

Q2 いつ発表される？

次の状況や今後の気象見込みなどを総合的に判断して発表します。
・大手大橋付近で、警戒レベル2相当の水位到達や、さらなる水位の上昇が見込まれるとき
・上流の長野県（千曲川）で警戒レベル3相当の水位に達したときや、大雨特別警報が発表されたとき



令和元年台風19号で増水した信濃川

Q3 なぜ早めの避難が必要？

信濃川が氾濫すると、市内の広い範囲で浸水が想定されるためです。
上流で降った大雨が数時間後に下流の長岡市に到達し、市内で雨が降っていても氾濫する恐れがあります。

まずは、ハザードマップを確認

洪水ハザードマップで、自宅が「浸水するか」「水に流されて倒壊する恐れはないか」を確認しましょう。マップには複数の河川を掲載しています。想定される浸水範囲や深さが異なるため、河川ごとに確認が必要です。

電子版ハザードマップはこちら

視覚障害者向けも多言語版も



家屋倒壊の恐れがある区域
(家屋倒壊等氾濫想定区域)

氾濫流区域
激しい流れで木造家屋が倒壊する恐れのある区域

河岸侵食区域
土地が削られて家屋が倒壊する恐れのある区域

浸水の恐れがある区域
(浸水想定区域)

浸水の深さを色ごとに表示

0.5m未満	0.5~3.0m未満	3.0~5.0m未満	5.0~10.0m未満	10.0~20.0m未満
--------	------------	------------	-------------	--------------

他にもある危険な場所

- 地下通路など通行が困難になる可能性が高い箇所
- 橋（水位が上がり、危険が高まる）

避難先を決める

市では、車移動や自宅内での安全確保を優先的に考える「長岡方式の避難行動」を呼び掛けています。自宅の状況に応じて最適な避難行動を決めましょう。

まずはこちらを検討

- ① 浸水しない場所へ車などで避難
- ② 自宅の上の階に避難
- ③ 最寄りの避難場所に避難



浸水しない地域にある親戚・知人宅や車中避難場所へ

3日分以上の食料や水を備蓄
 車は浸水しない場所に移動

車中避難場所
高台などにある施設の駐車場、学校のグラウンドなどを一時的な滞在場所として開放します。

ポイント
ハザードマップで、自宅が水に流されて倒壊する恐れがなく、上の階が浸水せず安全と判断できた場合のみ有効です。

浸水が想定される区域内であっても、上の階に避難できる施設です。VACAN（右）で避難場所や混雑状況が確認できます。
 渋滞の発生や緊急車両の妨げにならないよう、移動は原則徒歩で
 食料や水、薬などを持参

早めの避難につながる
自ら情報収集を

最新の防災情報を確実に得るため、平時から情報源を確保しておきましょう。

市公式LINE
友だち登録者全員に避難情報を配信。避難場所の位置・混雑状況がわかる地図やハザードマップなどにも簡単にアクセスできます。

市防災X (旧Twitter)

ながおかDメールプラス